



京都教育大学附属高等学校

2019年度 高等学校教育実践研究集会のご案内

2020年 **2月22日(土)** 9:00-15:40

テーマ：「わかる」から「できる」へ ー新しい授業改善のポイントー

講演会 **西岡 加名恵 先生** (京都大学大学院教育学研究科教授)

演題「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価
ー 観点別評価をカリキュラムの改善にどうつなげるか？

会場：京都教育大学附属高等学校
主催：京都教育大学附属高等学校
京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構
後援：京都府教育委員会・京都市教育委員会 <申請中>

京都教育大学附属高等学校

〒612-8431 京都市伏見区深草越後屋敷町 111
TEL：(075) 641-9195 FAX：(075) 641-3871
URL：<http://www.kyokyo-u.ac.jp/koukou/>

申込締切

2月5日(水)



2019 年度教育実践研究集会のご案内

2020 年 1 月吉日

京都教育大学
教育創生リージョナルセンター機構
機構長 村上 忠幸
京都教育大学附属高等学校
学校長 谷口 和成

寒冷の候、貴校におかれましてはますますご清栄のことと存じます。平素より、本学及び本校の研究や教育活動についてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度は下記のテーマで研究集会を実施することといたしました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、多数の先生方にご参会いただきますよう、格別のご高配をよろしくお願い申し上げます。

テーマ 「わかる」から「できる」へ ー新しい授業改善のポイントー

2018 年 3 月に高等学校の新学習指導要領が告示されました。今回の指導要領は「思考力、判断力、表現力」という表現が随所にみられ「知識や技能」だけでなく、何ができるようになるかというさまざまな「力」を育むことが求められています。それは、とりもなおさず私たちの授業のあり方が問われていることでもあります。各校で、新しい趣旨に対応した実践は進んでいるでしょうか。2022 年度から学年進行で改訂された指導要領での授業が始まります。この機会に、教育のパイロットプランの開発などの役割をもつ附属学校が、その研究や実践の成果を報告し、多くの方々と研究協議できれば幸いです。

会場：京都教育大学附属高等学校

主催：京都教育大学附属高等学校

京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構

後援：京都府教育委員会・京都市教育委員会 <申請中>

日程：2020 年 2 月 22 日(土)

教科：国語、英語、理科、情報、地理歴史(地理)、課題研究(英語、国語、理科)

当日のスケジュール

8:30~9:00	9:00~9:50	10:05~10:55	11:05~11:55	11:55~12:50
受付	公開授業Ⅰ	公開授業Ⅱ	全体会 本校の研究について SSH 生徒発表 など	昼休み
	/			
12:50~13:50	14:10~15:40			
教科研究集会	講演会			

公開授業Ⅰ 9:00~9:50

科目	学年	授業者	テーマ	内容
インフォメーションサイエンス	1年	山田 公成	プログラミングによるロボット制御演習	教育用ロボットを活用して自律型ロボットを制作し、対戦競技を行う。
グローバルスタディーズ(課題研究B)	1年	境 倫代 (英語) 岡本 幹 (理科)	江戸プロジェクト	一課題研究の導入 合教科的知識をもとに「江戸時代」を探究する。
課題研究発表会	1年 2年	1年生「課題研究B」(身近な題材をテーマに、基本的な探究活動を進めている)、2年生文系の「古典探究」(異なる時代の文献を比較検証することにより探究活動を進めている)で取り組んだ成果を合同でポスター発表する。		

公開授業Ⅱ 10:05~10:55

科目	学年	授業者	テーマ	内容
英語	2年	西岡 誠士	Mini Teachers Activity	各自が選んだトピックについて、英語で発表し、質疑応答を行う。
地理	2年	新井 教之	地図から読み解くSDGs	GIS(地理情報システム)を活用して、SDGs(持続可能な開発目標)についての理解を深める。
グローバルスタディーズ(課題研究B)	1年	境 倫代 (英語) 岡本 幹 (理科)	江戸プロジェクト(公開授業Ⅰの続き)	一課題研究の導入 合教科的知識をもとに「江戸時代」を探究する。
課題研究発表会	1年 2年	1年生「課題研究B」(身近な題材をテーマに、基本的な探究活動を進めている)2年生理系の「課題研究A」(幅広い分野から興味ある題材を選びより深く探究活動を進めている)で取り組んだ成果を、合同でポスター発表する。		

教員研修 10:05~10:55

漢文	深く漢文法を学びたい方	中井 光	漢文の文法を自信をもって教えらるようになるために	真の漢文法理解のために、『史記・鴻門の会』を教材に50分の講義を行う。漢文の授業に自信がない、句法の丸覚えから脱却したい、深く漢文法を学びたいという方を対象とし、あらゆる授業法構築の下支えとなるツールを磨く。
----	-------------	------	--------------------------	--

教科	助言者	発表者	研究発表題目と内容
英語	京都教育大学 英文学科 教授 西本 有逸	西岡 誠士	公開授業に関する説明を踏まえ、英語を用いた主体的・対話的な活動について考える。
情報	京都教育大学 産業技術科学科 教授 多田 知正	山田 公成	学校設定科目「インフォメーション・サイエンス」5年間の取り組みについて。
グローバル スタディーズ	京都教育大学 国文学科 教授 浜田 麻里 京都教育大学 理学科 教授 谷口 和成	境 倫代 (英語) 岡本 幹 (理科)	「知識の融合」を目的にした本校の合教科的な実践を通して、新教育課程で実施される「総合的な探究の時間」の取り組みについて、授業参加者と意見交流を図る。
課題研究	京都教育大学 国文学科 教授 谷口 匡 京都教育大学 理学科 准教授 今井 健介	中村 大輔 (国語) 古川 豊 (理科)	1.2年生の理科の「課題研究」・2年生の「古典探究」の探究活動を報告するとともに、課題研究の指導法等を参加者と意見交流を図る。

講演会

14:10～15:40

演題 「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価

—— 観点別評価をカリキュラムの改善にどうつなげるか？

講師：西岡 加名恵 先生 (京都大学大学院教育学研究科教授)



京都大学大学院教育学研究科修士課程修了後、英国バーミンガム大学にて Ph.D. (Ed.) を取得。鳴門教育大学講師、京都大学大学院教育学研究科准教授等を経て、2017年4月より同教授。専門は教育方法学。各地の学校や教育委員会と連携してパフォーマンス評価に関する共同研究開発を行うなど、カリキュラムと教育評価の改善に携わっている。

また、京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターの E.FORUM (教育研究開発フォーラム) にて、教員向けの研修にも取り組んでいる。文部科学省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」委員 (2012年12月～2014年3月)、高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」評価・推進委員会委員 (2013年6月～2016年3月) なども務める。

主な著書に、単著『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』(図書文化、2016年)、編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』(明治図書、2016年)、共編著『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』(日本標準、2019年) などがある。

